

## 道迷い遭難 防止と迅速な救出のために

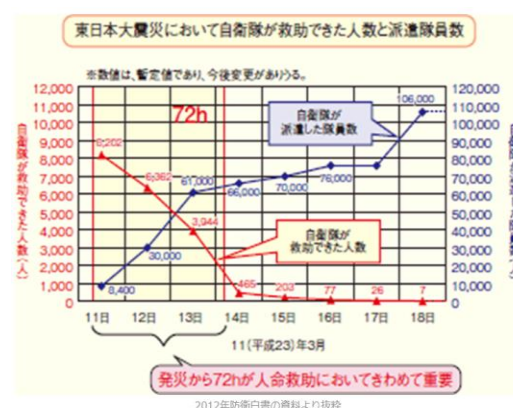
この数カ月、低山での道迷い遭難が相次ぎ、当支部でも岐阜県揖斐川町の西台山(949m)で道迷い遭難が発生しました。生存救出の限界といわれる72時間<sup>(※)</sup>が迫る中でのきわどい救出でした。

道迷い遭難は、全遭難件数の約40%、年間で1,250件ほど発生しており、死亡事故にもつながる場合も少なくありません。特に低山は、地形があいまいで、見通しがきかず、獣道や作業道、踏み迷い跡が入り乱れるなど、道迷いが発生しやすい条件がそろっているのに、甘く見て遭難につながるケースが多くみられます。

道迷い遭難においては、「**遭難防止対策**」だけでなく、万一の遭難時に「**救出されやすくする対策**」も重要です。この2つの対策についてまとめましたので、ご活用ください。

※「生存救出の限界72時間」とは

阪神淡路大震災や東日本大震災等を通じ、災害時の生存率が被災後72時間(3日)で大きく減少することが明らかになっている。山岳遭難でも同様の傾向がみられる(ただし高山や悪天時は、さらに厳しくなる)。



### I 道迷い遭難防止対策のポイント

#### ポイント1：登山の前に地図でルートや注意点を確認する＝登山計画書を作る

リーダーに引率される登山であっても、うっかりはぐれて遭難する事例も少なくありません。事前に登山計画書や地図でルートを確認し、注意点を把握しておくことは鉄則です。

まして、単独行や登山道の整備されていない山に登る場合、登山計画書の作成は不可欠で、作成することによって登山ルートの把握と危険箇所のチェックができます。

登山計画書はルールに従い提出するだけでなく、毎回家族にも渡しておきましょう。

#### ポイント2：単独行をなるべく避ける

単独登山者の遭難は、全遭難件数の35%を占め、複数登山者と比較して、遭難における死亡の比率は2.8倍、行方不明の比率は7倍と、重大事故が多いのが特徴です。

2人なら目は4つ、注意力は倍になり、道迷いの防止につながります。

やむを得ず単独行を行う場合は、リスクが高くなり、日帰り低山でも遭難が多発していることを意識して、より慎重に準備し、行動してください。

#### ポイント3：低山でも地図、磁石は必携。スマホがあればGPSアプリも入れておく

低山は、地形があいまいで道迷いしやすいことが多いので、地図、磁石は必携です。

また、今はスマートフォンに無料でGPSアプリがダウンロードでき、通話圏外でも自分の位置を把握することができ、大変有効な道迷い遭難防止ツールとなります。スマホがあるならぜひ入れておきましょう。詳しくはこのHPで⇒ <https://yamahack.com/2723>

#### ポイント4：迷ったかなと思ったら引き返す

道迷いに気が付かずに進んでしまうと、どんどんリカバリーが難しくなります。

グループ登山でも、グループから離れたなと思ったら、まず立ち止まって、登山道から外れて迷い道に入っていないか確認してみることが大切です。

#### ポイント5：単独行の場合や、登山道のない山では、地図・コンパス・GPSで常に自分の位置、自分の行く方向を確認する

迷ったかどうか気付くには、ルートから外れていないか、こまめに確認することが大事です。ルートの方向が大きく変わるような地点では、帰路を考え周辺の状況を確認し、必要に応じ赤テープなどで目印を付けておきましょう（ただし帰路必ず外すこと）。

## II. 救出されやすくする対策のポイント

#### ポイント1：登山届を出す。家族などにも行先の山・ルートを伝えていく

道迷い遭難では、生存救出の限界72時間までにいかに救出してもらうかが最重要です。

どの山へ行ったか分からないと、時間のロスが大きく、捜索隊の労力も過大になります。

当会では、登山届の提出が原則になっています(詳しくはJAC-TOKAI GUIDE 2020 参照)。

連絡不能となった場合のため、家族などにも行先の山やルートを伝えておきましょう。

特に行方不明になるリスクも高い単独行では、日帰り低山でも必ず行ってください。

#### ポイント2：単独行をなるべく避ける

道迷いに伴い、滑落などのリスクも高まります。

同行者は、道迷いの防止だけでなく、救出にも大きな助けになります。

#### ポイント3：SOSは早めに出す

迷惑をかけるからと、何とか自力でリカバリーしたくなるかもしれませんが、生存救出の限界の72時間をムダに使う余裕はありません。携帯電話が通じるなら早めに救援を要請しましょう。

#### ポイント4：道に迷った時やみくもに動かない、携帯電話が通じるならそこを動かない

救出者がやみくもに動くと、捜索が困難になります。なるべく目立ちそうな尾根上などで救助を待つのが原則です。携帯電話が通じる場合は、捜索者側で場所の特定が可能です。

日帰り登山でも予備のバッテリーは持参しましょう。山では目立つ服装を心がけましょう。

谷などに降りると滑落の危険があり、携帯が通じにくくなり、発見が遅れがちです。

## III 最後に

遭難は、家族や関係者に大きな負担をかけます。特に単独行で多発する行方不明の場合、失踪扱いとなり生命保険もすぐには出ないので、家族に精神面、経済面で大きな負担を残します。

最近では「ココヘリ COCOHELI」という、約3ヵ月に1回充電すればいい会員証を兼ねた発信機を携帯し、本人または家族から捜索依頼があると、受信機を搭載したヘリコプターを飛ばし、発信機の場所を特定してくれるというサービスもあります。

詳しくはこのHPで⇒ <https://hitococo.com/cocoheli/>

以上